

[ごあいさつ／代表取締役社長 玉井 行人]

■玉井社長

皆さまこんにちは。今日はお寒い中、90人も集まっただき本当にありがとうございます。私は1月1日の元日に就任いたしまして、まだ3週間です。知らないことばかりでサポカンと言われた時に「サポカンって何ですか？」と、そういう状況でございます。前職は新聞記者で人に質問するのが仕事でしたので、皆さんの側から質問していたので、攻める方は得意ですが、守りは苦手で今日はドキドキしています。答えられなかったり口ごもったりすることもあるかもしれませんが、誠心誠意、心を尽くして皆さんの意見を聞いていこうと思っていますので、今日は本当によろしく願いいたします。

[クラブ方針説明／代表取締役社長 玉井 行人]

■玉井社長

続きましてクラブの方針を説明いたします。昨年の記者会見、今年の1月20日の新体制の発表会でも少しお話ししましたが、それに参加していない方もいらっしゃると思いますので、簡単にまず自己紹介をさせていただきます。私は出身が若松です。高校まで若松にいて、あとは大学を卒業して新聞社に入って15回転勤して17回引っ越しをしました。ようやく故郷に戻ってきました。会社では35年間、新聞記者をしてみましたけどもスポーツを担当したことは1度もありません。当然サッカーも担当したことはありません。ずっと社会部で事件とか事故、東京で政治取材などをしておりました。そういう時に去年の年末にJ2に上がれず非常に困っていて、体制が変わるのでお前がなってくれんかということで地元の方から強い意思を持って社長になれと言われてました。サッカーのことは分からないというと、人に丁寧に接して心を結んでいくお前の人柄で何とかできんかと要請を受けました。さっきも言いましたが、自分は若松出身で、皆さま若松の方もいらっしゃるかもしれませんが、若松というところは川筋気質というのがあって、私の家も元々は洞海湾で石炭の積み出しをしておりました。子供の時から両親から困った人がいたら必ず助けなさい、どんなことをしても助けなさいと、それは理屈じゃないんだと言われてずっと育ってきました。それは弱い労働者がお互いに力を合わせて生きていくという手段の中から生まれた生き方だと思います。断る選択肢はなしに重責を受けました。それは自分が育った地域、この北九州に対する恩返しです。

色々な方がギラヴァンツ北九州というクラブをここまで成長させてくれたということで、もう1度自分のこのサッカーを知らないこの素人の目でもう1度クラブを見つめてなんとかしたいと思った時に今年のスローガンを「to the next stage ～この北九州（まち）とともに～」ということに決めさせていただきました。これまでの流れを踏まえて新しい領域に皆さんとともに入って行こう、手を繋いで行きましょうということです。「to the next stage」の前にGoだったりClimbであったり色んな動詞が入ると思うんですが、目的地への到達

の仕方はいろいろあっても皆さんと目的地は一緒ですよ。パートナーは北九州という街ですよ、ここだけは確認してそして前にみんなで力を合わせて進んでいこうという思いを込めてこのスローガンを作りました。

その上でクラブ方針は3つ掲げています。1つは地域密着を深めて進化させて多様な発展をさせていく。密着を深化と進化。2番目が新監督・新チームでJ2昇格を目指す。3つ目が平均入場者数7,000人と設定させてもらいました。事前にいろいろギラヴァンツのことを調べたんですけど、今日お見えになっています北九州市立大学の南先生がアンケートを取ったところ2017年にギラヴァンツ北九州を応援している市民が約25%と非常に少ない。せっかく北九州の唯一のプロスポーツチームなので強くなるのは当然ですけど、もっと街に出て行って市民に顔が見えるチームにしたい。選手の名前とともにこのチームをもっと街に知らしめたいということで地域密着を深めようと。これまでサッカー場に来なかった人達と触れ合ってスタジアムに来てもらいましょうと。地域密着というどうしても内向きなような気がしますけど、地域密着を強めることによって地元で愛されるチームとなって、そして応援をさせていただいてスタジアムに来てもらって集客増につながって行って収益が増えていくということです。木に例えると、地域密着で木の根っこを色んな街の中の隅々まで伸ばして行って幹をもっと太くしていこうと、そういうことでクラブを強くしていきたい。この段階で色々言うのは不遜ですけど、将来的にはもっともっとステージを上げてJ2からJ1へというのも当然クラブの目的でしょうけれども、スポーツビジネスをアジア展開していきたいという戦略にも繋げたいと思っていますので、そのためにも地域密着を強めて地元でしっかり根を下ろすチームにしていきたいというように思っております。その方策としてまだ実行段階にはありませんけども、会社の中に『この街プロジェクト』という専従班、タスクフォースを作ってこれまでしなかったような取り組みを進めていきたいということで現在検討をしています。まだ実行段階ではありませんので詳細は申し上げられませんけども、そういうことをしたいと思っております。2番目の新監督・新チームでJ2昇格、この戦力構成等々につきましては後ほど佐野強化育成本部長から説明がありますが、全力を出し切るサッカーの試合を見せるというのをベースに力強い戦い方をしていきたいと思っております。3番目の平均入場者数の目標ですが、去年のスタジアムの入場者数は約6,000人が、これもかなりスタジアムができた効果によるものがあつたので、6,500人が次のところじゃないかという声がありましたが、敢えて7,000人という大きな目標を設定させていただきました。さっきも申し上げましたが、地域密着という形で非サッカー層に切り込んでいくということで、レディースやファミリー層にアプローチしてもっとお客さんに足を運んでいただけないかなということを検討しております。文化団体とかスポーツ団体と個々で連携して何か新しい足を運んでくれる仕組みができないか、これも今から順次交渉をして進めていきたいと思っております。既に北九州文化連盟がギラヴァンツの応援をしたいので説明をしてくれと幹部会や総会に来て説明をしてくれということも言われています。こういう取り組みに即効性があるかどうかはわかりませんが、トライアンドエラーで色ん

な新しい取り組みをしてファン層の裾野を広げて斬新なことをやっていきたいなと思って  
おります。クラブの目標ではありませんけれども、先程私が申し上げましたけれども、新聞記  
者でしたので事前の情報だけでなく現場に行っているんなものを目と耳や自分の感覚であ  
るとか自分の経験で確認したいと思っていますので、皆さんともでき得る限り色んなお話  
を聞かせていただきたい、スタジアムにも行ってもサポーター席に行ったり、そういう形で  
皆さんとお話させていただく機会を作りたいと思っていますので、今日も忌憚ない意見  
を聞かせていただきたいと思っています。以上であります。

[強化方針説明／強化育成本部長 佐野 達]

※以下は、『2018 サポーターカンファレンス資料』のスライドに沿って説明いたしました。

■佐野強化育成本部長

皆さんこんにちは。今回強化育成本部長に就任いたしました佐野達でございます。よろしく  
お願いいたします。今日はお忙しい中、たくさんの方にお集まりいただきありがとうございます。  
また日頃より我々ギラヴァンツ北九州に対しまして多大なご支援ご声援ご協力い  
ただきましてありがとうございます。重ねてお礼申し上げます。今日は強化方針について私  
から説明させていただきたいと思いますが、私は去年クラブに関わっていた訳ではないの  
で、どちらかというとな皆さんと同じような立場で去年どうだったのか、そして今年どうする  
んだというような形で皆さんとお話出来るんじゃないかなということです。ぜひまた意  
見を聞かせていただきたいと思います。今日はパワーポイントで説明させていただきます  
が、見にくい方は角度を変えたり動いても構わないのでお願いしたいと思います。

チームは16日からスタートしまして、今日初めての休みを迎えました。それまで非常に厳  
しい練習をして、もちろん昇格のために練習している訳なんですけど、それまで2試合の  
トレーニングマッチを行いまして、皆さんもご承知だと思うんですけど昨日のアビスパ福  
岡と試合をして0-0でした。メンバーはガラッと変わりました。やり方もガラッと変わりました。  
ぜひ練習場にも足を運んでいただきたいと思います。

ギラヴァンツ北九州の強化方針ということで、今年の強化方針を語る上では昨年の分析を  
しなければいけないと思います。成績、試合内容、そして結果。全てを厳粛に受け止めて、  
選手の評価、そして試合の評価をしました。その中でこの6つが挙げられると思います。こ  
れは皆さんと多分同じだと思います。

1つ目は戦う姿勢。私もこのスタジアムで何度も試合を見ました。アウェーの試合も見まし  
た。それは客観的に見てたんですけど、ビデオでも試合を見ました。その中で戦う姿勢、こ  
れが明らかに欠けていたんじゃないかと思っています。「絶対に昇格する」この気持が足りな  
かったと私は思いました。練習からもっともっと本気度を示さなければいけない。練習から本  
気になって、昇格のために本気になってやらなければいけない、こういう危機感を持たな  
ければいけないと思います。1年でJ2に昇格するという去年の最大の目標を掲げたにも関わ

らず本気度が足りなかった。これが最大の要因だと思います。どこかで昇格するだろうという軽い気持ちがあったんじゃないかと思います。この北九州地域の皆様の想い、ファン・サポーターの皆様の想い、こん何素晴らしいスタジアムがあって、そしてスポンサーの方の支えがあって、ボランティアの方にも色々と支えていただいて、そういう皆様の想いをピッチで表現していなかった。これが昨年の大きな反省の1つだと思います。

2番目に戦術の柔軟性の欠如。選手の組み合わせの柔軟性が足りなかったんじゃないかと思います。相手の分析も、相手よっての戦い方、それもできなかった。私も何回か見ましたけど本当に元気が無いなと思いました。それは皆さんも同じじゃないかと思います。ホームゲームではもっともっと積極的に戦わなければいけません。また、試合状況によってリトリートして戦わなければいけない時もありますが、もっともっと一人一人の動きから元気が伝わるような試合をしないといけないと思います。また、今のJ3は戦術的にすごく複雑になってきています。ましてやギラヴァンツは去年優勝候補の筆頭でした。もちろんすごく分析されていたと思います。その中で我々はやはり対応できていなかった、戦術的な柔軟性がなかったということが言えると思います。あと、昇格するための戦い方。引き分けも昇格には必要な勝ち点1です。全てが勝ちに行くのではなくて、勝ち点1を取る戦い方、そういうことも必要なのではないかと思います。また、統一性、連動性。これは練習の中でどのようにして攻めるのか、どのようにして守るのか、そのような共通理解が無かったように思います。

3番目にゲームコントロール。去年のデータを見てみますと先制点が北九州は15試合。優勝した秋田は21試合ありました。これは大きなアドバンテージで、現代のフットボールは先制点のアドバンテージが非常に高いです。これは最終的な順位に大きな違いが出たということが言えると思います。試合の締めくくり方。残り15分の戦い方は今のサッカーでは非常に重要です。41失点中16点あった。39%がこの時間帯での失点。これはJ3で2番目多い。この1番大事な時間帯にこれだけ失点してたら昇格はないと思います。その要因としては運動量の低下。先程もいいましたが日頃の練習の強度が非常に少なかったので運動量がこの時間帯に落ちてしまう。そういうことで失点をしてしまったということが言えると思います。あとは交代選手の活性化、役割がはっきりしてなかった為に逆転勝ちは非常に少なかったということが言えると思います。あとは現代サッカーを語る上でセットプレーの重要性は当たり前のことなんですけど、今はまだ10日くらいしか練習してないですが、セットプレーの練習もすごくしております。30%以上の得点が現代ではありますので、セットプレーは本当に重要だと思います。

4つ目はコンディション。先程から何度も言ってますが、運動量が非常に少なかった、それも賢く走る。どのように走って、どのようにボールを受けて走るという約束事もしっかりできなかったために本当に運動量が少なかったなという印象があります。それは攻守の積極性に欠けるということも言えると思います。これも日頃の練習の強度が少なかったと、また1対1の球際、今言われているデュエルですね、これも昔から言われてることなんですけど

ど、1対1の球際が非常に弱かった。そして怪我人についてはここにデータがあるんですけど、お見せできないのが残念なんですけど、去年の怪我は50件近くありました。一昨年が80件近くあって、実は去年は下がった訳です。だけど重傷選手が多かった、30日以上怪我人が30%くらいあったのですごく怪我人が多かったという印象があると思うんですけど、サッカーは怪我に繋がるプレーが多いですが、2016年からは怪我人は低くなっています。ただこれをもっともっと下げないといけないので、トレーニングの強度を上げる、コーチングスタッフの管理、トレーナーとのコミュニケーションの充実を図っていかないといけないと思います。

そして5番目の組織的な守備と決定力。これもチームがどこから誰が守備のスイッチを入れて、どのように守るのか、これも練習の中から構築していくしかないと思っています。そういう約束事がほとんどなかった、だから守備のスイッチが入らなかったと思います。アタッキングサードの質の向上。サッカーは得点をしないと勝てないですが、そのアタッキングサード、ゴール前の26m付近ですかね、その辺りのバリエーションを増やしていかないといけない。もちろん個人でもそうですし、ユニットでもそうですし、チームでもそうですし、それをトレーニングの中でクオリティを上げていかなければいけない。ただ、ほとんどのJリーグの場合、外国人選手に頼っている状況にあります。残念ながら我々は外国人選手を獲得する状況ではないということで、今いる選手で組み合わせをしっかりと考えながら練習の強度を上げながら質を高めていきたいと思っています。

最後にコミュニケーション不足。これはクラブとしての一体感、先程社長からもありましたようにクラブとしてまとまりを持ってベクトルを合わせて一緒になってJ2を目指さなければいけないと思っています。その中でコミュニケーションが非常に重要で、もちろんクラブ側と皆様とのコミュニケーションも重要だと思いますし、チーム内でもコミュニケーションが必要です。チームとフロント、クラブ側のコミュニケーションも重要だと思います。もちろん選手同士のコミュニケーションももっともっと、本気でJ2を目指すのであれば、時には選手同士が言い争いをしたり本気になってやらなきゃいけないのではと思います。以上のことから、今スタイルとかコンセプトとか色々よく聞かれるのですが、そういうことではなくて、ポジションとかパスサッカーとか堅守速攻とかプレッシングサッカーそういうことでもなくて、状況に応じてその都度対応していかなければいけないのが現代のサッカーです。今ブラジルでもあん何うまいチームなのに前線からプレッシングをかけるそういうサッカーに変わりつつあります。状況に応じてスタイルを変えなければいけない、そういうことが言えると思います。そんな中でサッカーで変わってはいけないもの、これはいくつもあります。この辺は絶対にやらなければいけない、やらなければ勝てない項目だと思います。

〈パワーポイントで示した項目〉

不変的な事

- 攻守の切り替え

- ハードワーク
- 球際 (Duel)
- 1対1で勝つ
- ゴールに向かう強い姿勢
- ゴールを守る粘り強さ
- 魂

最後の魂などはもちろん当たり前のことなんですけど、こういう変わらないことがあります。そんな中で我々ギラヴァンツ北九州のサッカーの確立、全員で攻めて全員で守る、この辺りを徹底したいと、そういう意味でトータルフットボール、全員攻撃全員守備と掲げてやっていきたいと思います。どこからでも誰でも点が取れるそんなフットボールを目指したいと思います。今、守備を免除される選手はいません。ですから全員で攻めて全員で守る。これが今のサッカーのスタイルだと私は思っています。

そんな中でやらなければいけないことをいくつか並べさせていただきました。先程も言ってますように日常から練習の雰囲気を変える、ぜひ新門司の練習場に来ていただきたいと思います。本気になってJ2を目指してトレーニングします。そしてプロサッカー選手としての自覚、これも重要です。24時間J2昇格のために生活する、これは当たり前のことだと私は思っています。それくらいやらないとJ2昇格はないと思います。トレーニング・食事・睡眠、このバランスは大事だと皆さんもお分かりだと思うんですけど、これは我々も、キャンプは2月3日からありますけど、キャンプの時に味の素様の栄養管理士によって講習会を毎年行っております。選手にはそういうレクチャーをしております。寮の食事の管理も栄養士にお願いしてメニューを設定させていただいております。年々改善しております。更にもっともっとトップアスリートになるための食事の改善をしなければいけないと思っております。妻帯者の選手もいますので奥様方への講習も2月の下旬に予定しております。

更に我々がやらなければいけないこととして、イベント・地域貢献活動・社会貢献、これに積極的に参加していきたいと思っております。先程社長からもありましたように、イベントの参加数を去年の倍以上にしたいと思っております。監督は選手を休ませたいとか色々あると思うんですけど、監督にも了承いただいて積極的に北九州地域の皆さんと、サポーターの皆さんと触れ合って一緒になってJ2を目指したいと思っております。それはプロサッカーチームの義務だと私は思っています。全ては北九州地域の皆様に愛されるクラブになる、1つになって地域密着型、そういう真の地域密着型クラブを目指さなければいけないと思っております。

そんな中で新しい監督を迎えるんですけど、その選定基準としてこのようなことを挙げさせていただきました。まずは我々の目指すトータルフットボールが構築出来る監督。J3からJ2への昇格の経験者。やはりJ3を戦う上ではJ2の戦い方を知らないといけないと私は思っているのでこのJ2での監督経験者。そして先程からずっと言ってますように戦術的な

柔軟性がある方ですね。オプションをたくさん持っている攻撃的なオプション、そして守備のオプション、交代のカード、タイミング、その辺りの経験がある方。あとサッカーに対する情熱、この辺りを考えながら監督を選出しました。

コーチに関しては監督の要望が多かったです。ほとんど監督の要望に応えたということです。監督とのコミュニケーションを図れるのが1番なんですけど、状況を把握出来る、そして的確な対応が出来る、あと1番大事なのは監督に進言が出来る。仲良し小好しじゃ駄目だし、イエスマンだけでも駄目だし、監督と時には言い争うようなコーチも必要だと思います。最終決定は監督ですけど、それくらい情熱を持ってやれるコーチを選びました。

選手編成なんですけれど、やはり予算が限られています。この予算の中で最大限の選手補強をさせていただきました。ほとんどが森下監督の要望、もちろん森下監督とも密に意見交換しながらメンバーを選びました。平均年齢も28.8歳から26歳台に変わりました。このトータルバランスも重要だと思います。先程全員攻撃全員守備の話をしましたけど、チームのフットボールが出来る選手、そして守備の中心となれる選手、ストライカー、この辺りを候補の1つとして監督と考えて意見交換して決めました。今26名いますが交渉中の選手も何人かいます。最終的には28名、もしくは29名ということで考えております。開幕は3月ですけど、それまでにはなんとか交渉をまとめたいと思っています。あくまでも限られた予算なので、本当はブラジル代表の選手を3人…(サポーター：笑い声) そんな笑われるとは思わなかったんですけど。それはすごく手取り早いんですけど、お願い出来ればしたいところなんですけどそういう訳にもいかないんで、今の中で昇格を目指したいと思っていますし、19人の選手が残ってくれましたけど私はこの19人の選手のポテンシャルは非常に高いと思っています。昨日のトレーニングマッチに出場したメンバーを見てもガラッと変わりました。昨年怪我で泣いていた選手も1本目から非常に良いパフォーマンスをしてました。フォーメーションも変わりました。ですからそこには競争が生まれて新しい何かを引き出される、コーチングスタッフが導いてくれるそう私は思ってます。競争が生まれてチームが向上していくと思ってます。ですから昨年多く出場した選手もうかうかできないですし、そこに練習の厳しさが出てくると思うので、ぜひ新門司の練習に来ていただいてそのバチバチ感を見に来ていただければと思います。すごくピリピリして、やはりみんな試合に出たいですし勝ちたいですし昇格したいので、真剣にやってる姿を見に来ていただきたいと思います。

ここで少しアカデミーの話をしたと思います。我々にとって、Jクラブにとってアカデミーというのはものすごく重要だと思います。1番大事だと言っても過言ではないと思います。ただ残念ながら今、我々はアカデミーにそれほどパワーを持たされていないのが現状で、これは改善していかなければいけない点だと思っています。そんな中で我々強化育成本部、強化担当は今2人体制でやっております。これもJ3だからだと思います。これがJ2、J1になると、どんどん変わってくると思います。そしてここにアカデミーが我々の強化育成本部に含まれております。そのアカデミーの中にアカデミーダイレクターというアカデ

ミーを統括する者がおります。そして U18、U15 と、このカテゴリーに分かれて、今組織されております。やはりトップチームがあって、U18、そして U15、その基盤となるのはサッカースクール、普及事業本部、ここが我々の母体となります。ここをもっともっと広げて、北九州地域全体でサッカースクールをもっともっと広げられればと思っております。

そして簡単ですが、アカデミーのビジョンの話をさせていただきたいと思っております。やはり北九州を代表するチームとなるように前進していきたいと、やはりピッチだけではなくてピッチ外でも北九州を代表する選手、スタッフになって欲しいと、そして 1 人ひとりが太陽になれる、そんなアカデミーであってほしいと思っております。アカデミー生が、家族が喜ぶ顔を見るために、そしてクラスでは模範となるように、それはサッカーだけではなく勉強もそうだし、生活態度も行事への参加も積極的にやって欲しいと思っております。1 つ 1 つのプレー、1 つ 1 つの言動が全てクラブのものと思われるように、責任と誇りを持つように、まだまだ我々アカデミーは未熟ですが、そういうステータスをぜひ持つようにやっていきたいと思っております。そして将来としては、このアカデミーからトップチームに入れる選手が、昨年までアカデミーから選手が入っていましたが残念ながら契約更新できなかったのですが、もっともっとアカデミーからトップチームに昇格出来る選手を将来的に増やしていかなければいけないと思っております。ただ、トップに上げられる選手ばかりではないのでそれ以外のところでもいろんな関わり合いが出来る、そしてサッカー以外の分野でも活躍出来る、そんな人材の育成に務めていきたいと思っております。

そんな中で 1 番大事なのは、人間としての成長、これをアカデミーが謳っております。そしてアカデミーの目標ですが、今、県の 3 部です。なかなか県の 3 部の選手の中からトップチームのプロの選手っていうのは厳しい現状です。これを今年は県の 2 部に昇格、これは絶対にやって欲しいと思っております。そして U15 から U18 への昇格が去年は 4 名だったのですが倍にしました。そして、セレクションの受験生も 120 名だったのですが、これも倍以上にしたいと思っております。我々はアカデミーのことも視野に入れながら、クラブの成長の為にアカデミーの重要性を考え、もっともっと充実していきたいと考えております。

もう 1 度トップチームの話に戻ります。今年は 5 つのミッションを掲げてやっていきます。まず、ファン・サポーターファースト、先ほども言いましたけどイベントにもたくさん参加させていただいて、我々があるのは皆さまの力だと思います。これだけの素晴らしいスタジアムとサポーターの皆さんがいるおかげで我々は戦えています。一緒になってやらなければいけない、そのためにはもっともっと選手がサポーターの皆さんと交流を持つべきだと私は思っております。

そしてフェアプレー。これは昨年イエローカードが 44 枚、優勝した秋田は 18 枚です。この差は非常に大きい。やはり今、トップチームは J1、J2、J3 全てイエローカードが少ないチームが上位に来ている、これが現状です。フェアで勝つ、これは我々の重要なポイントだと思っております。

リスペクト、これは先ほども言いましたがいろんな方に支えられています。ギラヴァンツ北

九州に関わるすべての物、人、そしてサッカーに関わるすべての物、人に対して感謝の気持ちを持つ、そして大切に思う気持ちを持つ、それが最も重要かと思います。やはりボランティアの皆さんも試合の前日から用意していただいて、試合も観られないような方もたくさんいると思います。そういう方もいるということを選手は絶対忘れてはいけないと思います。

そしてこれは当たり前のことですが、絶対に諦めない。これは出来ているようで出来ていないのが現状で、皆さんもそう思っている方もいらっしゃると思うのですが、最後まで今年は絶対に諦めません。そして何度も言いますが、やはり昇格の為に全てを注がない限り昇格はないと思っています。半端な気持ちでは上がれないと思いますし、他のチームは大型補強もしています。外国人選手も補強しています。非常に厳しいシーズンになると思うのですが、そんな中でもチームが1つになって、そしてサポーターの皆さんと1つになって、ぜひこの昇格を達成出来るようにします。

私の方からは以上です。ありがとうございました。

[質疑応答]

■質問者①

佐野 GM にお答えいただけたらと思います。私は 2016 年に降格が決まるシーズンから応援を始めました。そこで目の当たりにしたのは、試合終盤の極端なパフォーマンスダウンとその結果です。昨シーズンもその傾向があったと思われます。これが選手の年齢や、その他個別的なポテンシャルだけが原因の結果なのだろうかと疑問を持っておりましたが、最近 J2 と J1 チームの 2 人のフィジカルコーチによる対談を聞く機会がありました。その仕事の詳細な内容を知りまして、グラブアンツに必要なのは、トップチームの選手に対して積極的に指示を出して、フィジカル面、コンディショニングをサポート出来る専任のフィジカルコーチではないかと考えております。最後まで走りきってもらうためには、プロの選手とはいえサポートが必要と考えました。他のスタッフとの連携で故障者の減少にも繋がるのではないのでしょうか。ちなみに J スポーツによりますと昨年の J1、J2 チームの大半がフィジカルコーチを置いているのに対しまして、J3 チームではわずか 3 チームだけでした。確か、昇格した栃木さんはあったように思います。例えば大きな資金を使って、得点力の高いフォワードの選手を 1 人獲得するよりも、現有選手の個々のパフォーマンスを上げることで、チームの総合力を確実に向上出来るのではないかと考えました。私はチームの詳しい内情を知りませんのでこのことについての佐野 GM のお考えと、現時点でのトップチームの選手に対するフィジカル面でのサポート体制について伺えたらと思います。よろしく願います。

▶佐野強化育成本部長

先ほども触れましたが、やはり今までの練習の強度というところが足りなかったということが言えると思います。その中で我々も専任のフィジカルコーチ、そして理学療法士も入れたいともちろん思っています。これはJ1では5人、6人というところもあるのですが、我々は先ほども申しましたように限られた予算の中で、どうチームを構築していくかっていうところで、今、監督、コーチ含めまして4名の体制でしていただいているのが現状です。じゃあ怪我の防止はどうするのかっていうところなのですが、今の指導者はもちろんS級ライセンス保有者になりますがすごくフィジカル的な勉強もしないとなかなか取れない状況なのでもちろん勉強もしていますし、それだけでは補えない点もあるのですが、トレーナーそしてドクターとコミュニケーションを取りながらしています。今現時点で昨年からの怪我人が1人います。その選手は昨年からリハビリをしていて、その他の選手は今まで10日間やってきましたけど怪我人が0です。それは選手のことをしっかり管理するということをしていけば対応出来るのではないかと思います。もちろん選手自身がその辺の体のケアを真剣に考えないといけないことですが、増員はなかなか厳しいという状況の中、今のコーチングスタッフの中で対応しているのが現状でございます。

毎年、怪我、肉離れをしていた選手がいるのですが、今すごく調子が良いです。昨年怪我していた選手も先ほども言いましたけど、昨日のトレーニングマッチでは1本目から前線で頑張っていましたし、去年の怪我が嘘のように。もちろんサッカーですから怪我する可能性はありますが、自己管理を含め今いるスタッフの中で最善を尽くしていきたいと考えております。

## ■質問者②

3点ほど愛のある提言だと思って聞いてください。今回も111項目の質問・要望が事前に寄せられていますが、一昨年あるメディアの方がこれらはすべて必要な要員数とお金があれば解決出来ると明言していました。だからサポーターにいろんなことを言われても解決しないという話を耳にしたことがあります。

指摘されている部分を3点ほど。1つ、グッズの件で卓上カレンダーがあります。年内発売されるのですが、移籍した選手の月を見ると非常に悲しいです。私はトイレと居間に置いていますが、トイレに行くたびに、去年は最後、池元くんだったかな。だけど移籍した選手の月になるとトイレに行くのが悲しくなるので、難しいと思うのですが卓上カレンダーを在籍している選手にどうにかならないかなと。3月ぐらいに発売したらどうかっていうのもありますが、ご一考ください。それが1点目です。

指摘がありましたが、のぼり等の撤去で、飾るのは飾るけど撤去とか交換はどうなっているのかと。モノレールの城野駅に去年、過去在籍した選手ののぼりがずっと立っていたことがありました。未だに、私事ですけど、母親の病院に行く途中にまだ工藤監督と井原監督と柱谷監督のポスターが貼ってあります。もう剥がそうかなと思っっているのですが。のぼりとか

掲示物の撤去交換の改善をお願いしたいのが2点目です。

それから最後ですが、新しい社長にお願いします。サポーターに向き合うということでしたが、私、事前のメールで何かありますかって言われた時はないって書きました、だいたい出てくるだろうと。質問させていただいた2点はここに無かったので、質問したのと、もう1度始まる前にずっと111項目ザーっと目を通したら、3箇所もミスがあります。僕らの間では「ギラやけんなあ、ギラヴァンツやけんな」で終わっていますが、こういう誤字脱字とかいうのも私にとって、何かもう正面向かってきているのかなあとか。紙を配った後に訂正箇所がありますと、紙1枚添えてくれたらあれですが、配っていないっていうのはチェック機能はどうなっているのだろうか、これは選手の移籍とかでも同じことがありました。公式ホームページに載った、消えた、また載ったとかですね。私は突きませんけど頑張ったいなという。カレンダーの件と掲示物撤去交換の件と、こういう大々的な文章の構成、チェック。批判ではありませんので、愛のある苦言だと思って聞いてください。ありがとうございます。

#### ▶平原事業本部長

カレンダーについては内部でも少し議論もありました。ただ、営業的な側面も実はございまして、社内的な年度は2月から始まって1月までというのがありますし、例えばスポンサー企業様の予算の中で、年末のカレンダーをお配りするとなったら、9月ぐらいから動いてその枠の中で営業を取っていくというような活動の側面も実はあります。そうやって収入の1つの柱とまでは言いませんが、大きな部分でございまして営業的な側面でしていたというのはございまして。ただ確かに卓上カレンダーでギラヴァンツの試合の日程とかが入って、次はどことの試合だとか分かるような卓上カレンダーが机にあるという日常に、ギラヴァンツっていうのを皆さまの生活の中に落とし込んでいくには、今言われたような3月カレンダーっていうのは少し考えていきたいなというのは前々から少し議論も出ております。1つ意見として今は受け止めさせていただいて、来期どうするかっていうのはお示ししたいなと思っております。のぼりの件でございまして、明らかに交換のし忘れだとか、かなりサポーターの皆さんから自分が貼ってくるよということでお渡ししたりだとか、どこに貼ったという管理まで徹底できてない部分とかもございまして、古いポスターが貼っていたりだとかいうのがあると思います。特に先ほど言われたような柱谷監督と工藤監督と井原監督というようなポスターはおそらく警察だとか、そういったいろんな機関が作成したもので、こちらが勝手に貼り替えられるものではないというのがあるのですが、こちらがメンテナンス忘れというのかなり多くて、おそらくそれについてのご指摘だろうと思っております。それについては指摘を受けましたらすぐに対応したいと思っておりますので、クラブの方にご一報いただきたいと思っております。もう1つの質問は玉井社長からがよろしいでしょうか。指名がございましたので。

▶玉井社長

刊行物の誤表記については、申し訳ないのですが私は速報性と正確性を最大の心情としております新聞社にありましたので、出来る限り最終的に私がチェックしてミス防止をするのか、私がノウハウをスタッフに徹底的に指導するのか、そういう形で必ずミスを直そうと思っておりますのでご迷惑をお掛けいたしました。これからそのようなことが起きないようにいたします。申し訳ございませんでした。

■質問者③

質問は2つあります。このクラブはいつからというとなかなか難しいのですが、スタートダッシュに失敗する傾向があります。シーズン序盤で負けて、「あれっ?」と思っていると6月ぐらいから勝ち始めるというのが多々ありまして、それよりは、スタートダッシュを一気に決めて上位に最初からいる方が話題にもなって良いと思います。クラブとしてはスタートダッシュを決める策があるのかというのが1つ。

二つ目は先ほど怪我のことは聞かれたので、食事面において、例としてはスポンサーとかと連携して、スポンサーに「タダで飯をよこせ」とはいきませんから少し値を抑えてもらって選手の食事面のサポートをしてもらうことはできないのか。この二つを質問とさせていただきます。よろしくをお願いします。

▶佐野強化育成本部長

まず、スタートダッシュについては我々もとても重要だと思っています。そのためにキャンプも練習試合も。練習試合は12~13試合ほどやりましてその中で開幕に合わせて全てを万全にしていくと考えております。開幕戦だけが全てではないのですが、開幕の5試合というのは大変に重要な試合だと捉えております。チームの調子というのは色々なバランスがあり、開幕にピークを持っていくとあとは落ちるばかりなので、そのへんのバランスを上手くとりながら開幕して上昇気流にのれるように準備していきたいと思っております。

▶平原事業本部長

食事面のサポートでスポンサー様のお名前も上がったので、この間、社長とスポンサー様に伺った時にそういったこともできたらいいねというお話もいただいております。ただ、毎回同じスポンサー様に行くわけにもいかないのです。そういったことにもトライしていければと思います。ご指摘ありがとうございます。

▶佐野強化育成本部長

先ほど話しましたが栄養管理に関しては、栄養管理士にレクチャーを受けてその中で話を聞いて、選手も栄養管理に努めている状況です。

#### ■質問者④

佐野強化本部長にお伺いします。例年、この時期はみんな希望に溢れていて、練習も活気があって、トレーニングマッチも活気があるのですが、去年も夏頃から成績が落ち始めて、練習の強度が下がって選手たちの声が聞こえなくなっていくということがありましたが、先ほどまでの話を聞いていてメンタル面のコーチを常設で置くことは難しいと思うのですが、チームとしてうまくいかない場面もシーズンの中で必ず出てくると思うので、選手のメンタル面についてどのように考えられているか。今年は本山選手からも佐野本部長からも練習を見に来てくださいということでお話をいただいています。練習日程が今年から週間が出るように変わって、金曜日に次の1週間の日程が出るという形で都合がつかないという人も出てくると思うのですが、今後、週間日程の出し方というのは変わらずにされる予定でしょうか。お願いいたします。

#### ▶佐野強化育成本部

まず、夏頃からのチーム力の低下というところで指導者の力というのがすごく大きいと思います。チームの戦術的な柔軟性というところで、相手チームを分析することによって我々もそれ以上に対応していく、その能力に欠けていたと思っています。ちょっとした問題が起きたらそこで解決するコーチの力量もあると思いますし、去年はどちらかというところと放置していた状況だと色々な話を聞いてそのように思います。小さい問題から解決していくコーチの情報収集力と選手たちとのコミュニケーションも必要だと思いますし、それを徹底的にやっていくことで、状態が悪い時もあると思いますが必ずここに留めてなんとか上がれるようにと今のスタッフならば改善出来ると思っています。

日程に関してはまた広報から話があると思いますが、今の監督は選手に緊張感を与えたいと、いつ休みになるか分からないしマンネリ化をなくしたいと、選手の状態を見ながら休みも入れたいという考えを持っていて、例えば、午前練習して午後休みにして次の日の午前中を休みにしたら1日休みになると選手に言っているくらいです。そのぐらい厳しい監督でして皆様に早く情報をお伝えしたいのは山々なんですけども、チームが勝つために直前になって変更があることもあり、申し訳ないのですがそのあたりはご了承頂きたいと思っています。申し訳ございません。

#### ▶井上事業副本部長

スケジュールの件ご迷惑おかけしております。今、佐野からお伝えさせていただいた通りです。昨日も日程を発表させていただきましたけども、昨日のタイミングということになりましたが、極力早めにツイッターの方でも更新しましたという情報だけでも出させていただきますと思います。あとは、皆様にキャンプのスケジュールをお伝えするのが非常に遅くな

りました。申し訳ございません。トレーニングの時間の方はまだ出せていない状況ではありますが、ご理解いただいて、シーズンの途中ではもう少し長いスパンで出していくというのは聞いておりますので。

▶佐野強化育成本部長

J3 の 9 位のチームなので練習しなければ勝てないというのが現状で、選手に緊張感を与えるということをご理解いただければ。

▶井上事業副本部長

遠方から来られている方がいることも分かっておりますが、ご理解、ご協力いただければと思います。よろしくお願いいたします。

■質問者⑤

質問というよりはお願いです。横断幕の件ですけど、シーズン中もお話しすることもあったのですが、横断幕の掲出場所の拡大ですね。それをお願いしたいです。

▶井上事業副本部長

シーズン中も色々とお話しましたし、大旗の件についても課題として残っています。昨年 1 年間やってきて、スペースがバックスタンドの海側の B 席の下のところ、スタジアムの強度など色々ありますので、この辺もスタジアムともお客様とも話をしながら進めさせていただきたいと思います。また別に張り方の方法について課題があるのでご相談をできればと思いますのでよろしくお願いいたします。

■質問者⑥

先ほどトップチームの食事栄養面のお話がありましたけど、これをユースアカデミーの方でもトップチーム同様に食事栄養面でのサポート及び指導は行うのでしょうか。

▶佐野強化育成本部長

もちろん、アカデミーの方も重要性ということからも栄養管理の部分で考えておりますが。実際、アカデミーは先行投資の部分があると思いますが、そこにクラブの比重がいないことも現状それを改善していかなければいけない、環境も練習場も土でやっていて、U-18 の強いチームは人工芝でトレーニングするのが通常ですが、ハード面からも変えていかなければいけないし、栄養面もまだまだ改善をしていく必要があると思っています。

■質問者⑦

先ほどユースの栄養面等を言っていましたがユースの選手達は基本的には高校生で学校が終わってそのまま練習という選手が多くて、何度かユースの練習も見に行かせていただいたのですが、練習が終わった後に個人でお弁当を持ってきている選手がいますが、練習後に軽く食べることが出来るものをユースの選手達に提供出来るような環境というのはまだ当分先になるのでしょうか。

▶佐野強化育成本部長

これは1日でも早くそのような環境にしていきたいと思います。クラブハウスの近くに寮があってアカデミー育成をするというのはすごく時間がかかることだと思います。これをコツコツと早急にしていかなければいけないと思っています。アカデミーの重要性は我々にとって急務だと捉えています。

■質問者⑧

回答の時期がいつもサポカンの時期が決算月なので開示はしづらいと思うのですが、一昨年度の収入額は八億五千五百万の最終的利益は百七十万ぐらいだったと思うのですが、この1月決算はそれより収入高は上回るのか、下回るのか。あと今年度は回答の中では市の補助に関しては大幅な減額になる可能性も含めて考えておりますということで、現時点で先ほど強化部長から限られた予算でということでしたので、お話出来る範囲でそのあたりのことを話していただくと幸いです。お願いいたします。

▶戸田管理本部長

まず2017年度決算ですが確定ではないですが2016年度よりは収入は上回りそうです。もともと、J3に落ちたということで当初とても心配をしておりました。スポンサー様が離れていくのではないかなと心配をしておりました。ですが皆さまこういう時こそ支えていただいてゼロではないですが、かなりのスポンサー様がそのまま同額で引き継いでいただきまして、去年以上は確保できそうです。2018年度は市からの補助金を減らされるかもしれないということで、我々は頂く立場なのでどうこう申し上げられないのですが、今我々がやれることは今季どのような部分に取り組むということを真摯に市の方にお話をしなにか少しでも補助金の減額幅を減らしてもらおうと話しております。結果はまだ分かってないですが、市の結果を待つということです。今、収入予算を作っておりますが、それ以外の部分で結構減るところもありまして、例えば、移籍金です。2017年度には移籍金が結構あったのですが、残念ながら2018年度は移籍金が入ってくる予定がありませんので減ります。それ以外の部分については、トップスポンサー様もなんとか2017年度並みは確保し

ていただけるような話にはなっています。まだそれは各社それぞれ会社の中で稟議をあげて通していただかないといけないのですが、なんとか 2017 年度並みは確保してもらおうと取り組んでいます。ですから若干の減にはなろうかと考えています。

■質問者⑧

Jリーグからの補助金は？

▶戸田管理本部長

Jリーグからの補助金は J3 なのでほぼ変わらないのですが…。

■質問者⑨

落ちた時の救済金は？

▶戸田管理本部長

落ちた時の救済金は去年は無かったです。制度が今年からなのでもらえてなかったです。このような状況で予算に関して 2018 年度の収入は、2017 年度より 1 割減までは行かないと思います。若干減になろうかと、そういう形で予算を組んでいます。

■質問者⑩

今日は貴重なお時間割いていただきありがとうございます。SNS の利用についてお伺いします。クラブの SNS ではなくて、選手の SNS について心配なところがありまして、去年、選手がインスタグラムを活用して非常に多く発信していて、サポーターとしては嬉しい反面、それまでは SNS というのは諸刃の剣でして今までは内輪のやりとりだったのが全世界に公開されているので、若さ溢れるツイートですが心配だなと思うところもあるので、あまり制限をかけない程度にそういった選手の SNS 運用についても協力していただいて、あまり炎上が無いようにしていただきたいというのが 1 点。もう 1 点は、ユース世代の育成の話も出ていましたが今年も高卒の選手で佐藤選手を獲得しましたが、高卒で獲得した梶原選手が残念ながら、昨年、契約更新ができなかったということでそういった選手のセカンドキャリアについてももう少しサポートしていただけないかなと思います。そういったサポートがないと親御さんの立場ですと高卒でいきなりプロに預けようかなという気持ちにはなかなかないのではと。幸いにして北九州市は大学等がたくさんありますので、プロと二足のわらじというのは難しいかもしれませんが、契約して 3 年間の間で 2 年分の短大の単位取得などの連携をしていただいて、グラヴァンツさんだったら高卒で預けて安心だなというような体制を、すぐには難しいと思いますが、整えていただけたらなと思います。

▶井上事業副本部長

先に SNS 関係で答えさせていただきます。クラブの SNS の利用についても問題があると皆さんからご指摘がある通りだと思っております。試行錯誤しながら色々な方にご意見伺いながら取り組ませていただきますが、また見直しも図っていかないといけないというのも

現実にあります。今年、外側のルールもですが社内ルール、情報の集め方も含めて、いろいろ課題も含めてもう一度総合的にルール化、体制作りをやりたいと思っています。選手の SNS 利用について選手にも言っていますが研修を行う予定にしています。専門的なところで代表をサポートしていたり J リーグのサポートをしていたりしているところと話し合いをしています。内容や出し方、アカウントの作り方など。そのあたりどんどん出していく方向ではいきたいと思っています。言葉の問題もあると思うのでそのあたりも選手と話し合いをしながら研修を行って、積極的に情報を出していきたいと思っていますので、皆さまが期待されている時間にスピードが追いつけないかもしれませんが、人員の問題ですとか、トータルで解決していかなければならないところもあるので、ご理解をいただきたいと思います。逆にこういうこと掲げたら楽しかったよなど楽しかったこともお伝えいただけるとクラブだけで悩んでいる部分が、こちらの方が喜ばれているとか明らかに感じられるところでもありますのでぜひご協力いただけたらと思います。

#### ▶平原事業本部長

アカデミーから 3 年前に上がって去年契約更新しなかった梶原選手についてですが、この 2 月よりうちのスクールのコーチとして勤めることが決まりました。他の選手についても、フロント等の話もあって交渉まで進めるなどの動きもしています。選手も他の仕事との比較で自分のこれから長い将来、あるべき方向に進んでいくというのを、まだ十分では無いんですけども少しずつサポートしていければと思います。以上を報告させていただきます。

#### ▶スタッフより補足

毎年 J リーグ新人研修というのがあります。J リーグ全新人選手が参加する会がありその中で SNS の注意点を J リーグの講師から講習を受けました。失敗事例など聞いていて怖くなる話もしっかりとしていただいて、LINE の怖さ、電話番号の登録だけで選手の登録が出てきたり、ID の検索ができたりなど具体的に話してくださいました。選手たちもその場で設定していました。そういった具体的な事例を出すような素晴らしい研修も受けております。

#### ■質問者①

この質問は実は 2012 か 2013 年のサポーターカンファレンスでした質問と全く同じ質問をします。目の前にいる方は全員入れ変わってしまっていますが、このクラブは JFL の頃からみてやっぱり北九州はプロスポーツが無いから盛り上がりには欠けたりしてそれを 1 つにしようということでやってきたチームです。ここのクラブは TOTO さん、安川さん、スポンサーさん。それぞれが後援会をやってそれぞれがバラバラにやってらっしゃることがあります。企業さんごとだったり商工会なら商工会さんで議員さんは議員さんでバラバラにイベントをしていたりとか、そういったことがあってもう少しスポンサーの後援会をひとまとめに出来るような体制というのができないのかなと当時質問をしました。

その時の回答が色々と事情があってそういうのができればいいですねといったやり取りが、インターネット検索すると出てくると思うのですが、質問の意図というのが例えばお隣の大分トリニータ。後援会が動いて大きな後援会があってシーズンパス年間 J3 でも 7.000 枚とか後援会が売ってさばいているような状況を作ったりとか、私は住所が山口県ですけど、レノファ山口がどういったことやっているかという、スポンサー様がシーズンパスを買いませんかって言ってくれます。そういった状況で、1つの大きな後援会みたいな組織がその下の各スポンサーさんに話がたって全体として動いている。そういった体制ができないのかということをお聞きしたくて前と同じ質問をさせていただきました。

▶玉井社長

私もまだ事情がよくのみ込めていないのですが、それぞれの事情があってこういう形になっていると思います。また前回と同じ回答になるかもわかりませんが、出来ることならそういう選択肢もあるのかなとは思っています。もう少し事情を研究させていただいてよろしいですか。現時点で言えるのはこういうことなので、申し訳ないですが事情をご理解ください。

■質問者⑫

玉井社長にお聞きします。アウェーに社長は観に行くことはありますか?それと社長もレプリカユニフォームを着て一緒に応援をしませんか。

▶玉井社長

ご質問ありがとうございます。アウェーには行きます。先ほどのレプリカユニフォームも着て表に立ってどんどん応援していきたいと思っております。ありがとうございました。

(一同拍手)

■質問者⑬

この会が来るまでに自分がずっと思っていたことがありまして、それが何かと言いますと選手のことです。僕も 50 代後半になりましたので子供がいるわけですが、その我が子よりも若い選手たちがちらほら在籍するようになってきた。そうするとプロの選手であっても我が子にも似た気持ちも少しずつ出てきています。1 番心配しているのが彼らの食生活です。後半の残り 15 分になって点を取られるとか色んな話がありましたけれども、去年の 8 月 26 日、後半のロスタイムに 2 点目が入りました。その時選手が目の前まで来てくれましたので隣のお兄ちゃんたちと選手の背中をバチバチと叩きました。頭もなでなでしました。その時にびっくりしたのが彼らもビショビショです。頭もシャツもビショビショ、背中をバンバ

ン叩き、頭もよしよしすると、彼らの汗が皆にかかってこんなビショビショになっちゃっていると。彼らはみんな頑張っているんだ。ロスタイムになっても走っていますよ。でも時々足が止まる。多分ガス欠だと思います。皆さんここで質問ですが、選手は 26 人ですか、今日の朝飯誰が何を食べたかご存知ですか。昼に何を食べたかご存知ですか。また晩飯、こいつらは何を食べるのだと。家内もここにいるものですからやっぱりお母さんです。ご飯何を食べているのだろうと、1 番そこを心配しているんですね。フィジカル的なところやフォーメーションのことというのはある意味お父さんが 1 番考えるべきことでしょう。佐野さんが全部やってくれていると僕も安心しています。だけどやっぱりそれだけでは何か足りない部分がある。やっぱり公私があれば私の部分があるわけですから、そこで選手たちに講習をするだけでは中々若い男が言われたものをちゃんと食べません。食べるわけがない。俺は肉が嫌いだとかニンジンを食べないとか、20 代 30 代というのはそんなものです。僕もネットで色々見ていました。ここにも書いていますが、ジェフは監督が変わっていきなり寮の飯が不味くなった、それはなぜか。パスタソースがなくなったという記事がありました。パスタには何もかけなくていいのだと。それと肉に関しては、ある選手はこの肉は料理をし損ねたのじゃないかというくらいパサパサで脂っ気がなかったと。そこには科学的な根拠もあって料理を美味しく食べさせるということも必要なのかもわかりませんが、ぜひ食事に関しての取り組みというのを今までやってなかったことがあれば必ずやってほしい。僕ら 2 年間地獄見ました。降格し、そして昇格もできなかった。厳しい言い方をすれば昇格争いにかすりもしなかったんです。サポーターは 90 分プラス  $\alpha$  声を出し続ける体力作りをしています。だから皆さんも選手たちに 90 分プラス  $\alpha$  走りきれるように、気持ちだけじゃ絶対にうまくいきません。フィジカル的な部分の取り組みを、事細かく親父であり、お袋である様にしながら、「お前何を食う取るか」ということまで立ち入って、プロ選手とはいえ、もう 3 度目の地獄は嫌です。だから 1 つ 1 つそういった細かいところまで含めて、優しい想いを持ってぜひやっていっていただきたいと思います。

#### ▶佐野強化育成本部長

ありがとうございます。我々も栄養管理に関しては真摯に受け止めて取り組まなければいけないと思っています。ただ選手も意識改革をしなければいけない。それは我々も教えていかなければいけない部分もあると思うのですが、本人が本気で思わない限り本物にはならないと。24 時間食べる物から何から全部管理するのは中々できないというのはあります。寮では栄養管理士のメニューの下、年々改善されています。まだまだ改善の余地があると思っています。先ほど言いましたように講習も行っているのですが、それももっと徹底的に妻帯者の選手の食事メニューも改善しなければいけないと思っています。本来ならば皆一緒の寮に入って 3 食全て管理したいとも思っていますし、午前中練習が終わって昼の食事でも我々が提供すれば 1 番いいと思うのですが、中々現実的にはそこまでいっていないと。あとは選手にレクチャーして練習後にはどんなものを食べたらいいいのか、その辺の話をし

で指導しているつもりですが、もっと改善が必要だとももちろん思っております。

▶玉井社長

熱い思いをありがとうございました。自分もまだなっただけですが、このギラヴァンツ北九州はみんな家族であると思って、そういう気持ちで今から接していこうと思っていますので食事のことも含めて色々考えていこうと思っています。また貴重なご意見聞かせてください。ありがとうございました。

■質問者⑭

サポーターカンファレンスについてなんですけれども、去年が確か初めの1回だけで終わったのではないかと思うのですが、今年は何回していただけるでしょうか。少なくとも3回はしていただきたいと思っているのですけれども。去年のことを言うのもあれだと思うのですが、結局1回やって状況が苦しくなって何もやらずに、そして年末に報告もないまま社長はいなくなりました。何か言うべきことがあったのではないかと思います。まあそれはともかくとして、状況が苦しくなった時こそサポーターの人に来てもらって厳しい意見を聞きながら自分たちの後押しをして欲しいとお願いするのが普通じゃないかと思うのですが、去年は後押しして欲しいというアナウンスばかりして、こっちの気持ちは聞かないでそれでいいのかなど。してほしいのだったらこっちの話も聞いてくれないかなど。そういうことで今年は何回していただけますか。細かい日程とかはその時々でいいと思います。それに合わせてこちらも都合をつけます。ということでお願いします。

▶玉井社長

今までのことは承知しておりませんが、サポーターカンファレンスを何回やるかというよりも、皆さんの意見を私がいつでも聞ける関係性を構築していきたいと思っております。そういう回答でよろしいですか。

■質問者⑭

それはそれでいいですが、こう皆が一堂に集まって話をして意見交換する場というのが必要なんじゃないかなど。

▶玉井社長

それは必要があればぜひ考えさせていただきたいと思いますが2回とか3回とか回数じゃないと思っています。どれだけ質的に同じ思いを共有出来るのが肝要と思っています。だから2回やったらいい3回やったらいいという話ではないと思っていますので、それよりももっと自分が出て行って皆さんのお話をお聞きしたいと思っている次第です。

■質問者⑭

そういつて去年は開かれなかったの。

▶玉井社長

変わりますので、それは信じてください。

■質問者⑮

佐野強化本部長の去年の反省と今年の施策を聞いて非常に感銘しまして、絶対今年はやってくれると思っています。ですが万が一、去年みたいなことになった場合に多分夏の中断期間がチェックポイントになると思うのですが、夏の中断期間までの目標と、もし万が一の場合の監督を変えるとか大型補強をするとかいうことに関して、最終責任者は佐野さんでよろしいのかということをお聞きしたいと思います。

▶佐野強化育成本部長

もちろん私が責任を持って、その辺は取りまとめていきたいと思っています。J2 昇格のために夏にどうなるかということですが、もちろん開幕ダッシュでそれこそ連戦連勝でいきたいと思っていますが、勝負事ですからどうなるかはわかりません。その辺はチームの状況を見ながらしっかり我々も分析していきたいなと思っていますし、夏のウィンドウが開けてその時に補強の話も出てくると思うのですが、その辺はクラブの予算も含めて昇格のために万全を期したいと思っています。

■質問者⑯

中間地点までの目標は今の所ありますか。

▶佐野強化育成本部長

もちろん首位でいきたいと思っています。

■質問者⑰

分かりました。じゃあ首位じゃなかった場合は「佐野さん出て来ーい!」と言って大丈夫でしょうか。

▶佐野強化育成本部長

もちろん一緒になってお話ししたいと思っています。

■質問者⑩

体制を一新されて非常に期待しております。色んな要望もたくさん書いてあって好きなことと言える場なので言っていると思うのですが、何せお金が必要だということで、そこに貼ってあるスポンサーもぜひ継続していただいて本当にありがたいなといつも思っております。それで今回夏の中断期間が40日近く空くということでももちろん練習は死ぬほどしていただけたと思うのですが、先日ユニフォームが発表されて女性受けしそうな可愛いものになって間口を広げるためにすごくいいことだと思っています。それでできればJ1のクラブのような大きなイベントではなくても、女性もどんどん増えてきていると思うのでファン感のようなものを、大々的にはお金や人が足りなくてできないと思うのですが、ちょっとやるだけでも間口を広げる効果があるのではないかなと思いますので、ぜひ前向きに検討していただければと思います。

▶井上事業副本部長

ありがとうございます。今許可を頂いて回答できます。一昨日、選手の方から相談ということで話す場がありました。40日間のスケジュールを発表した後に選手も知りますから、この期間のことについて話をしまして、やりたいということをおっしゃっています。ですが佐野の顔色も伺いながら、監督の顔色も伺いながら、でも適した時期というのもあると思います。選手の方も夏休みやオフの期間というのも中断期間に入ってきますし、その期間にどう積み上げるのかということもあると思いますので、その辺りも考慮した上でお出しできればと思います。規模感も含めてどういうことがいいのかというのは夏の時期ですし会場の問題とかも出てくると思います。その辺の踏み込んだ話を実際にしましたのでいい方向でお伝え出来ると思います。

■質問者⑪

佐野 GM にお伺いしたいのですが、私は2010年からギラヴァンツ北九州のサポーターをやらせてもらってますが、その中で確固たる北九州のサッカースタイルというのが1回は出来かけてまた崩れてしまった。まあその繰り返しであると思います。今回先ほども仰られた通りトータルフットボールというしっかりした目標を掲げてらっしゃいましたので、北九州のサッカースタイルって何なのと聞かれた時に「何だろうな」と言葉に窮するところが私たちもあってですね、今度こそ北九州のスタイルというのをしっかり目指して粘り強く編成に当たられて欲しいなど。僕らもサポートを頑張りますので北九州のサッカースタイルはこれだよというのが根付くまで粘り強くこのクラブで、北九州に来てくださってありがとうございますという気持ちで一杯です。ちなみに私事ですが、2011年の当時佐野 GM がまだ長崎の監督をされていた時に何回か島原に知人の紹介で観戦に行かせてもらいまし

た。その時のサッカーを見る限り私は非常に期待しています。すごく感動しましたので、ぜひここに骨を埋めるくらいの気持ちでやっていただきたいというのが私の思いです。

▶佐野強化育成本部長

先ほども触れましたけど全員攻撃全員守備のトータルフットボールの確立をやっていきたいと思っていますし、コンセプトがないのが現代のフットボールだと思います。堅守速攻、プレッシングサッカー、ポゼッション、色々あると思うのですが、トータルで考えなければいけないですし、全員が躍動感をもってハードワークする。それこそが北九州のフットボールだと思います。それを確立していきたいと思います。

■質問者⑱

社長にお願いします。まだ入ったばかりでよく分からないと思いますが、一昨年降格した時の選手の勝利給が、同じ降格しそうなチームとだいぶ差があったと聞いています。だから今年は出すべきところは出してあげられるようにしていただければなと思います。それから社長の補足になると思いますが、北九州は企業の後援会はありますよね。300万くらい出していると思うのですが、1回イベントもやっているはずですが。ただ後援会自体まとまりが弱くて、そちらの後援会も会社の方から頑張って大きくしてくれとしていただければなと思います。あと平原さんに聞いたかったのですが、藤吉君とか桑原君とか辞めた選手が今まで残ってくれていましたが、去年からうちにはそういった選手がいません。梶原君に入ってもらっていますけど試合に出ていない子ですし、今年も私の知っている選手は一応打診を受けたけど、給料の提示が低いので全然お話にならない、何のキャリアの評価もされなかったと聞いていますので、そういったのも考えていただければなと思います。

最後に私からのお願いですが、去年チームの練習後差し入れをしようとして1度だけはしましたが、その後は何度か打診しても返事が来なかったり断られましたので、食生活の改善ということを先ほどから言われていましたので、できれば今年は何回かさせていただければなとお願ひします。

▶戸田管理本部長

勝利給のところをお答えします。他クラブと比較してそんなに少ないという意識もないのですが、一応勝利給と元々の契約金これらトータルでどのくらいという枠を設定して編成をさせていただいているので、どちら側に比重を置くかということはチームの考え方に沿ってやらせてもらっています。ですからそんなに少なかったというイメージはないですが、J2にいた時よりは確かに単価は落ちました。2016年度よりは落ちております。またJ2になったらそれなりに増やしていかないといけないと思っていますけれども、現状では契約金とバランスをとりながら考えております。それから後援会ですが、商工会議所さんの方でして

いただいて、活発かと言われるとそうでもないと思いますのでその辺は商工会議所さんと連携をとってもっと会員数を増やしていきたいと思います。そうなるとうちに入ってくるお金も増えますので盛り上げていきたいと思っております。

▶平原事業本部長

安川電機さんとか後援会で活発にされているところもありますので、それを付け加えさせていただきます。あと選手のセカンドキャリアについて話していた募集の件ですが、基本フロントの職員というのはたぶん選手から見るとびっくりするくらい安い給料で働いているというのが実情だと思います。そういった意味では選手のように来年がないという厳しい世界でもありませんので。逆に言ったら最初から高い給料でというのもありなのかもしれないですが、それがまたクラブの負担になってチーム強化という1番やるべきことが疎かになるということもありますので、その辺は他の職員より大幅に高いというような給料は出せないのが現状なのかなと思っています。その辺も含めてご理解をいただければと思います。

▶井上事業副本部長

差し入れの件ですね。今年入ったの課題でドーピングの問題がすごく厳しくなっております。ですので、ちょっとここで出す話ではなかったのですが、ファン対応も含めて飲み物や食べ物を厳しくすべきなのか今課題に上がっているところです。一昨年の広島の子選手例もありまして、やはりどこでどう入ってくるかというのが選手を守る立場として課題になります。その辺りはまた会社内で検討させていただいて対応していきます。ご協力いただくことにはありがたく思っておりますので気持ちよく対応出来るやり方を探していきたいと思っています。またお話をさせてください。

■質問者⑨

街なかギラヴァンツについて質問があります。平日は17時30分から18時30分くらいということで参加したくても参加できない。特に仕事のある人は。そこはご一考願いたいと思います。あと17時30分から18時30分ということで、その時間を選んでいる理由ですね。どの層をターゲットにしているのか、スタジアムに来てもらうためにどういう施策を打つのか、ただ単にチラシを配るだけだと誰も来ないと思いますので、そこら辺を検討していただければと思います。あと最後サポカン開催の告知を1週間前にするのはやめてください。

▶井上事業副本部長

ありがとうございます。チラシの配布や告知のところも含めて非常に反省しております。おっしゃる通りだと思っております。毎年言われているのも重々把握しております。改善する

ために粘り強くやっていくしかないと思います。繰り返しになってしまうかもしれませんが言っていただければと思いますし、1つ1つ丁寧に改善していきたいと思っております。街なかギラヴァンツに関する課題もありますし、見せ方の問題ですとか誰とやるのかも含めて社内でも検討させていただいておりますので、もう少しご協力頂けるような形に広げたいと思っております。皆さん色々なご都合があると思いますので、ご都合がつく範囲内でのご協力、皆さんに無理のない形をご提示できればなと思っております。引き続きご相談させていただきながら続けていきたいと思っております。

▶平原事業本部長

ありがとうございます。街なかギラヴァンツについて少し補足をするとうちは玉井社長の号令もありましたので、選手にもピラ配りをしてもらおうと思っております。基本は1番人通りの多い時に出て行くということになります。朝は練習時間を削ってしまつては本末転倒ということもありますので、朝はちょっと難しいかなと思つていますが、皆さんと一緒にやるというのをフロントの人間は24時間365日出て行くつもりはあります。逆に言つたら選手ではないパートも少し作つてというの也能るのかなと思つております。また色々ご意見いただき取り組んでいきたいと思つておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

—質疑応答終了—

[お礼の言葉／玉井社長]

皆さん長時間ありがとうございました。初めて参加させていただきましたが、本当にありがたいご意見、皆さんの熱い思いに触れて、ひとつひとつの言葉が胸に染み入る思いです。今年はずいぶん、皆さんとこうした想いを集めて昇格も含めて次のステージへつなげていきたいと決意しております。今後ともご声援よろしくお願い致します。本日はありがとうございました。